

其上置陶器御盃一口口径四寸加蓋并盤等○下略

〔萬載狂歌集雜六〕燒物の盃に酒をもればおのづから盃中に星のかげうかむとて重寶にしける人のもとにて、

朱樂菅江

一口は下戸でも千葉のすけよかし家の秘藏の盃にほし

〔言經卿記〕慶長八年八月廿六日庚戌禁中ヨリピイドロ馬上蓋一拜領了、忝者也、

〔下學集下器財〕椰子ヤシ盃ハ也木也横截椰子爲盃若以毒投盃中酒忽沸涌令人無害也然今人漆其盃中其失椰子之用也○又見壺囊抄

〔節用集大器財〕椰子ヤシ盃ハ也毒消

〔好色二代男六〕人魂も死ぬる程の中

さる格子には紙盃に割竹を傳せ酒買はすなど何事もすればなるものなり、

〔蔭涼軒日録〕長享三年六月十二日芳州依鹽斷後來愚云浮白風流罪蓋白漆之大盃出故及之、

〔男女祝元美人妝書六〕夫婦三土器

三土器ハ往古ヨリ今モ土器ヲ用乍去例ハ何ノ比ヨリカ塗盃ヲ用○下略

〔堀川後度狂歌集三〕九月九日

土性軒逸山

菊。壽。盃。童子が酌の千代こめて不老不死の中に瀧吞

〔正月揃五〕紙屋の芳春

すこし丘がたに並んで雪ならぬ絹かけ松見て飲んといふに吸筒おのゝ取出すみな盃をわすれて來ぬおかしく此口よりすぐに口にあけんともいひ許由が流に手してやらんといふもさすが心きよからざりしに僕こゝろへて日頃たしなめりとてたゞみ盃といふものを藥袋より出すも又紙なり、

〔機巧圖彙下〕搖盃

以製作爲名